

平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：宗谷地区
- 2 事例報告学校名：礼文町立香深井小学校
- 3 報告者：校長 虻川 康士
- 4 キーワード：「礼文型教育連携」 保小・小小・小中・地域とのつながり

1 はじめに

香深井小学校は、礼文島へのフェリーが着く香深から約7Km北に位置し、全校児童は12名、学級数は4学級（特別支援1学級含む）の学校である。明治27年礼文尋常小学校香深分校として開校し、明治34年に香深井尋常小学校と改称し、今年で開校124年目を迎える（児童数は多い時で200名近く在籍したと記録には書かれている）歴史と伝統、そして地域に根付く“地域の学校”である。

今年、「礼文型教育連携」の取組が始まって13年目を迎えている。全教職員がつながって協力して「教師力」「学校力」「研究力」を高め合う教育連携。町研を推進母体とした保・小・中・高そして、PTA・地域のつながりを香深井小学校の取組を通して一部紹介する。

2 実践紹介

（1）保小・小小・小中の連携

《保小連携》

香深保育所は、歩いて5分程の距離にあり小学校のグラウンドで徒競走の練習をしたり、散歩や遊具での遊びに來たりと日常的に交流があり、園児たちの様子や個々の実態などに触れる機会が多くある。また、小学校の行事への招待や合同花壇整備作業等一緒に活動することも多いので、小学校や先生方にも慣れ親しんでいるので、入学に関しても大変スムーズである。



〈読み聞かせ活動〉



〈香小雪まつり〉

《小小連携》

合同学習がメインではあるが、修学旅行（6年生）や宿泊研修（5年生）なども合同で実施している。校内で同じ学年の授業を観ることができないので教員の研修・力量向上という意味でも効果がある。さらに本校の児童にとっては、学年1人という学級もあるので、同年代の交流・授業・活動は大変意義のある取組となっている。

《小中連携》

香深地区では“ドリームマッチ（DM）”と称し、小学校の先生と中学校の先生がペアを組み、中学校の先生が小学校で授業を実施している。小学校の教員にとっては中学校の専門性、中学校の教員にとっては、小学校の先生方のきめ細やかで丁寧な指導法等お互いに学ぶところが多くあるという。子どもたちも中学校の先生のことを入学前からよく知っている先生となるので、進学への不安が減少し、先生方も児童の実態を入学前に把握できるという大きなメリットがある。



〈DM（体育授業）〉



〈DM（授業）〉

（２）地域に学ぶ～「礼文学」

礼文町では、ふるさと礼文を学び、誇りに思う心を育てようと総合的な学習の一環として「礼文学」という授業を大切にしている。「礼文学」は「礼文型教育連携」の大きな柱の一つとして、系列表も作成され、各学校では児童の実態をもとに系統性に基づいて授業をつくり実践している。

11月には、各学校の1年間の取組を発表・交流する「礼文学発表会」が開催され、児童生徒のみならず学習を進める上でお世話になった関係者や保護者・地域の方々など広く参加を呼び掛け、学校の取組や児童生徒の活動・成長を還元している。

平成30年度 礼文学系列表

礼文学の目的
ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。

学年	科目	内容	学年	科目	内容
1	総合的な学習の時間	ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。	2	総合的な学習の時間	ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。
3	総合的な学習の時間	ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。	4	総合的な学習の時間	ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。
5	総合的な学習の時間	ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。	6	総合的な学習の時間	ふるさと礼文を体験を通して、ふるさとへの誇りと夢を見出し、21世紀を逞しく生きる力を育てる。

《礼文学系列表～一部抜粋》

《香小コンブの取組》

香小では、基幹産業である漁業（コンブ）について地域の方を講師に授業に取り組んでいる。12月の種付け作業から始まり、水揚げ・干す（乾燥）・剪定・袋詰め・配布（観光大使活動）までを実施している。

漁師さんたちの仕事を体験的に知ることはもちろん、観光大使活動（礼文のPR活動）にも取り組んでいるので、ふるさと礼文のことをよく調べその魅力や良さを深く掘り起こすことで、また、礼文が好きになっていくという構図があり、実際に観光客相手に礼文の魅力を話している子どもたちからは自信と誇らしさも覗える。お話を聞いて頂いた観光客の方からお礼の手紙が届くことも多く、子どもたちの意欲付けに繋がっている。



《種付け作業》



《干す作業》



《袋詰め作業》



《観光大使活動》

3 おわりに

礼文町では、連携を大切にしながら一人一人の先生、学校、そして地域と礼文町全体の教育の質を向上させようと日々研修・努力を重ねてきた。この「礼文型教育連携」が始まったきっかけの一つが相次ぐ閉校・統合による学校数の激減と教員数の減少にあった。13年目を迎えるが、一定の型はできてきていると思うが、まだまだ課題も多く、更なる研鑽を積まなくてはならない。ただ単に、意識して連携を進めていくのではなく、子どもたちのためにつながっていないとよりよい教育の実践ができないという意識が、関係者に少しずつ芽生えてきていると感じている。一般的な連携を意識しない、子どもたちを念頭においた『連携（つながり）』という言葉が、今、歩み始めている。